



インタビュー コロナ禍と国際情勢

世界中がコロナ禍への対応に追われている中でも変化し続ける国際情勢をどう読み解けばいいか。

BSフジのプライムニュースでおなじみの真田幸光教授に聞いた。

愛知淑徳大学 ビジネス学部・研究科
教授 真田幸光さん

「疑心暗鬼」という心のウイルス

——新型コロナウイルス感染症との戦いが続いています。

コロナがどんなウイルスなのかよく分からない。だから対応しようがない。このことが全ての混沌の原因になっています。例えばワクチンでも、間もなくできるだろうと言う人もいれば、まだまだだと言う人も。専門家の間でも意見が割れ、揺れています。私たち専門外の人間は、よく分からないから「大丈夫とは思うけど念のため慎重に」と控えめに動くようになる。社会経済活動がこれまでにないほど鈍化してしまっています。

——こうした中、最近の国際情勢で特に気になること、注視しているのは？

3つ挙げると、1つ目は「疑心暗鬼」という心のウイルスが世界に広がっていること。WHOは本当に正しいことを言っているのだろうか。日本政府の発表していることは本当なのか。こうした疑心暗鬼が社会を混乱させる大きな原因になっています。ビジネスでも互いの信頼という源が揺らぐと進められないですね。

2つ目は価値観を共有しようとする動き。米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドといった国々の間で、「こういう時だからこ

そ価値観を共有しよう」という機運が生まれつつあります。

3つ目は2つ目の延長線上にあるのですが、こうした既存の価値観に変化の兆候が見られることです。現在の世界秩序は米英の価値観とスタンダードによってつくられています。世界共通言語は英語。世界の基軸通貨は米ドル、その前は英国のスターリング・ポンドでした。会計基準も、ものづくりのISO(国際標準化機構)も、そしてIMF(国際通貨基金)、世界銀行といった世界経済を動かす国際機関まで。全てのスタンダードを米英によって牛耳られている状況に挑戦状を叩きつけているのが中国です。一帯一路とそれを資金面で支えるAIIB(アジアインフラ投資銀行)で人民元経済圏を拡大し、中国のやり方でビジネスをグローバルに展開できるようにしようとしています。



インタビューはZoomで行った
(左：真田教授、右：大洞海外安全センター長)